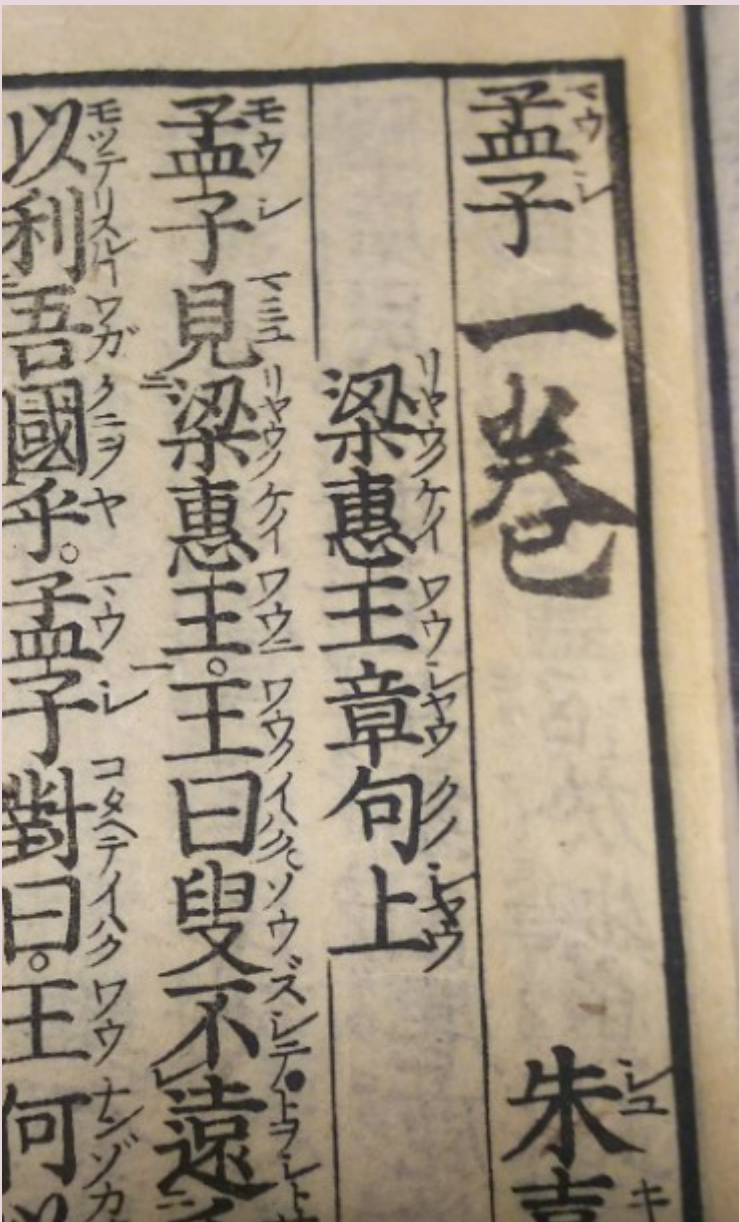


古書のたのしみ（令和元年七月）

つちや
博

（京都市大佛前俵屋清兵衛ほか、天保十己亥孟秋再刻、一三八丁）

古書價格二百圓也。舊假名總ルビの読み易きこと格別なり。當時の印刷技術の卓越振りをも堪能し得る一冊と覺ゆ。和紙の紙質愛すべし。所有者の墨書サインに、「是永茂高」と。如何なる人物なりしや。



二「増補實地活用 日本用文大全」内山正如著

（博文館、明治二十六年増訂三版、正價金五拾錢、三二二頁）

古書價格三百圓也。初版は明治二十一年。緒言に曰く、「高嶺に登らんと欲せば先づ其麓路より辿らざるべからず」と。目次は以下の如し。四季用文篇、雜事用文篇、商家用文篇、農工家用文篇、生徒用文篇、女子用文篇、時令記事篇、記事論說篇、傳記篇（佐藤一斎、三條實美、大久保利通ら）、憲法發布頌德表、名士手翰集（信長、山陽、松陰、龍馬、隆盛ら）、記事論說文作例、和文作例（紫式部、兼好法師、清少納言ら）、名家歌集（源義家、太田道灌、楠正行ら）、名家詩集、羅馬字用法、清遊雅式、百工製法篇、四季割烹篇、證書文例篇、書籍出版願届手續、龍頭。たとへば、新年の用文は、以下の如し。「鳳曆之嘉祥萬象維新愛度申納候先以高閣御無異御超陽被遊珍重之御儀奉存候隨而蝸居老少依舊加壽仕候間乍憚御放懷可被下候右歳甫之祝詞申上度如斯御座候謹具」と。漢字ばかりなれど、年賀狀に使用されては如何。

三「漢文中學讀本參考書 全」鹿嶋喜平治著、松本豊多校閱

（吉川半七藏版、明治二十七年刊、定價金參拾錢、四四丁）

古書價格二百圓也。保存状態頗るよし。「三善清行」の読み方につき、永年の疑問氷塊す。曰く、「世間清行はキヨツラと讀むもの多し。之を三善家の子孫に質するにキヨヤスと讀む可しといへり。今之

に従ふ」と。(日本外史冒頭部分に出現す。大町桂月は正しくキヨヤスと訓じたれど、少数派に属せり。)

四「女子のふみ」与謝野晶子著

(弘學館、大正三年十一版、定價金四拾五錢、一二四頁)

古書價格二百圓也。初版は明治四十三年。著者、はしがきに曰く、「此の書の作例は、著者が若し斯かる場合と斯かる境遇とにあらば、斯かる風に認むべしと、その實際に身を置きたる心持にて書きぬ」と。

たとへば、「年始の文」、以下の如し。『新しき年立ち申し候。幸ひかぎりなき御あたりの彌さらに榮えさせ給へと御祝ひ申し上げまゐらせ候、まことや、おん美しくきお子様方、今朝はいかやうに見え給ふらむ。めでたきためしに蓬萊をひくまでも無く足らひ居ます御ことと、遙かに存じ上げまゐらせ候、かしこ。』

五「萬葉の旅」(上中下) 犬養孝著

(現代教養文庫、昭和五十八年四十四刷、定價千四百四十圓)

函入。古書價格千圓也。上巻大和。中巻近畿・東海・東國。下巻山陽・九州・山陰・北陸。下巻二六頁には新元號令和のもととなりたる「梅花の宴」の記述あり。犬養博士曰く、「天平二年七三〇年正月一三日太陽曆二月八日には旅人の官邸で梅花の宴が盛大に行はる。集まる者憶良・小野老・沙彌滿誓・大伴百代ら筑紫中央人のほか大隅・薩摩・壱岐・對馬に及ぶ所管諸國の官人ら。その折の梅花の歌三二首と中國詩文を模倣驅使したる美文の序、巻五に所収」と。

六「村山リウ 源氏物語 上中下」

(創元社、昭和四十一年十二版乃至九版、定價各四百六拾圓、三三七十三四〇十三二四頁)

古書價格三冊にて千圓也。よみうりテレビにて昭和三十四年より一年二か月に亙り毎日放送せられたるものの由。語りをその儘活字にしたれば、読み易きこと此の上無し。かかるテレビ放送、今日にては不可能と覺ゆ。

(令和元年七月二十二日受附)